

第4分科会

被災地における 子どもや家庭への支援

概要

東日本大震災後、被災地において子どもや家庭に対して様々な支援が行われてきたが、子どもの心のケアをはじめ、今後も息の長い支援活動が求められている。被災地で支援を行っている関係者からの活動報告を通じ、今後の支援のあり方について考える。

コーディネーター

加藤 道代 (かとう みちよ) 氏

東北大学大学院教育学研究科教育心理学講座教授
東北大学大学院教育学研究科震災子ども支援室 (S-チル) 室長



略歴

昭和54年 東北大学文学部哲学科心理学専攻卒業
平成 7年 東北大学大学院国際文化研究科博士課程前期2年の過程修了
平成10年 東北大学大学院教育学研究科博士課程後期3年の過程満期退学
平成11年 東北大学教育学部講師 臨床心理士資格取得
平成14年 東北大学大学院教育学研究科助教授
平成21年 博士 (教育学)
平成23年 東北大学大学院教育学研究科教授 (~現在に至る)

著書等

【主要著書】

『家族支援論—家族の発達に目を向けて—』松村和子他編著 2010 建帛社 (分担執筆)、『復旧・復興へ向かう地域と学校』青木栄一編 東洋経済新報社 2015 (分担執筆)、『子どもとかかわる人のための心理学』沼山博他編著 2017 萌文書林 (分担執筆)

【主要論文】

加藤道代・黒澤泰・神谷哲司 2014 夫婦ペアレンティング調整尺度作成と子育て時期による変化の横断的検討. 心理学研究,84 (6), 566-575.

加藤道代・黒澤泰・神谷哲司 2014 幼児期から青年期の子どもをもつ親の養育態度の検討. 小児保健研究, 73 (5), 672-679.

加藤道代・神谷哲司 2017 幼児期から青年期における子どもの外在化問題行動と夫婦ペアレンティングの関連. 小児保健研究, 76 (6), 637-643.

パネリスト

工藤 吉則 (くどう よしのり) 氏

宮城県東部教育事務所指導班 副参事 (班長) 指導主事

略歴

昭和60年4月 宮城県本吉郡志津川町立入谷小学校 教諭

平成19年4月 宮城県仙台市立燕沢小学校 教頭

平成24年4月 宮城県東部教育事務所登米地域事務所教育班 次長 (指導主事)

平成27年4月 宮城県気仙沼市立小泉小学校 校長

平成30年4月 宮城県東部教育事務所指導班 副参事 (班長) 指導主事



パネリスト

阿部 結花 (あべ ゆか) 氏

あしなが育英会 東北事務所 石巻担当

略歴

平成 3年 山形県天童市生まれ

平成26年 東京都認証保育園勤務

平成28年 現職



パネリスト

門馬 優 (もんま ゆう) 氏

特定非営利活動法人TEDIC 代表理事
石巻圏域子ども・若者総合相談センター センター長

**略歴**

平成元年3月1日生まれ、宮城県石巻市出身。NPO法人TEDIC代表理事。石巻圏域子ども・若者総合相談センターセンター長。早稲田大学大学院教職研究科修士課程修了。東日本大震災で故郷が被災、平成23年5月にTEDICを設立(平成26年にNPO法人格取得)。貧困、虐待、ネグレクト、不登校、ひきこもりなど様々な困難におかれる子ども・若者に伴走しながら、官・民の垣根を超えて、地域で育てていく支援・仕組みづくりに取り組み、主に困難ケースへのアウトリーチを中心に子ども・若者に関わる。

石巻専修大学共創研究センター特別研究員(平成25～平成26)、石巻市地域福祉委員会委員(平成27～平成29)、同市教育委員会学校支援地域コーディネーター(平成28～平成29)、同市立貞山小学校区協働教育推進委員(平成27～平成29)、同市立万石浦小学校区協働教育推進委員(平成28～平成29)等を歴任。現在は、宮城県教育委員会地域学校協働活動評価・検証会委員、石巻市子ども・子育て会議委員、同市立蛇田中学校学校評議委員、公益財団法人子どもの貧困対策センターあすのばアドバイザー、公益社団法人チャンス・フォー・チルドレンアドバイザー、ユースソーシャルワークみやぎ代表幹事、NPO法人子どもにやさしいまちづくり理事などを務める。

パネリスト

太田 倫子 (おおた みちこ) 氏

公益社団法人こどもみらい研究所 代表理事
宮城県生涯学習審議会 委員

**略歴**

昭和43年 宮城県石巻市生まれ

平成 3年 東京外国語大学アラビア語学科卒業

三和銀行ブラッセル支店、森ビル株式会社などに勤務

平成23年 一般社団法人キッズ・メディア・ステーション(現・公益社団法人こどもみらい研究所)設立、代表理事

被災地における 子どもや家庭への支援

宮城県東部教育事務所指導班
副参事(班長)指導主事 工藤吉則

1

1 宮城県東部教育事務所及び事務所管内について

- 宮城県教育委員会の地方機関として、県内5カ所に設置されている教育事務所の一つ(仙台市を除く)
- 平成30年4月1日に宮城県東部教育事務所と宮城県東部教育事務所登米地域事務所が「宮城県東部教育事務所」として再編成
- 石巻市, 登米市, 東松島市, 女川町の3市1町



2

2 東部教育事務所の班組織

総務班	事務所内の経理、文書その他庶務に関すること 市町村等教育委員会に対する指導助言に関すること 市町村立学校その他の教育機関の施設及び設備の整備に関すること 教職員宿舎の維持管理に関すること 公立学校共済組合及び教職員互助会に関すること 県費負担教職員の給与等に関すること 県費負担教職員の旅費等に関すること
教育学事班	県費負担教職員の人事に関すること 常勤講師(市町村教育委員会に派遣する非常勤職員を含む)の任用に関すること 学校教育及び学校管理に関すること 就学事務に関すること 教育職員の免許状に関すること 生涯学習に関すること 社会教育の施設及び設備に関すること 社会体育・文化の振興に関すること 文化財等に関すること
指導班	学校教育の指導助言に関すること 教育職員の研修に関すること 学校保健及び学校給食に関すること 教育相談に関すること
児童生徒心のサポート班	心のケア・いじめ・不登校等の児童生徒(保護者を含む)の心のサポートに関すること 上記に対応する学校・教職員の支援に関すること 「みやぎ子どもの心のケアハウス」、「けやき教室」等の運営支援に関すること

3

3 管内の小・中学校について

(1) 学校数(平成30年度)

	石巻市	登米市	東松島市	女川町	合計
小学校	33	22	8	1	64
中学校	19	10	3	1	33
合計	52	32	11	2	97

(2) 児童生徒数(H30.5.1)

	石巻市	登米市	東松島市	女川町	合計
小学校	6,518	3,805	2,076	199	12,598
中学校	3,520	2,057	1,117	131	6,825
合計	10,038	5,862	3,193	330	19,423

4

(3) 東日本大震災に関わる公立小・中学校の統廃合の状況

市町村	関連する学校	新設・統合した学校	市町村	関連する学校	新設・統合した学校
石巻市	谷川小	大原小	東松島市	小野小	鳴瀬桜華小(新設)
	船越小	雄勝小		宮戸小	宮野森小(新設)
	大須小		野森小		
	相川小	北上小(新設)	鳴瀬第一中	鳴瀬未来中(新設)	
	吉浜小		鳴瀬第二中		
橋浦小		女川町	女川第一小	女川小(新設)	
門脇小	石巻小		女川第二小		
湊第二小	湊小	女川第一中			
荻浜小	万石浦小	女川第二中	女川中(新設)		
大川小	二俣小				
飯野川第一小	飯野川小				
飯野川第二小					
大川中	河北中				
雄勝中	雄勝中				
大須中					

5

4 管内の小・中学校における不登校の状況について

(1) 平成28年小・中学校の不登校児童生徒出現率

	小学校(%)	中学校(%)	備考
管内(石巻地区)	0.74	5.00	石巻市 東松島市 女川町
宮城県	0.52	4.08	
全国	0.47	3.01	



参考資料: 文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」他

6

(2) 不登校の主な要因

- ・「不安」の傾向がある
- ・「無気力」の傾向がある
- ・「学校における人間関係」に課題を抱えている
- ・「あそび・非行」の傾向がある
- ・「その他」(理由がはっきりしない等)

(平成28年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(宮城)」より)

(3) 不登校のきっかけと震災の影響について

小学校	ある	ない	小学校	ある	ない
管内	5.8%	94.2%	管内	8.3%	91.7%
宮城県	3.8%	96.2%	宮城県	2.9%	97.1%

(宮城県教育委員会「平成28年における宮城県長期欠席状況調査(公立小中学校)結果」より)

5 学校や教員への支援について

(1) 学校訪問での支援

【「はじめ・不登校を生まない学級・学校づくり及び学校課題に係る話し合い」の実施】

- ① 実施日: 指導主事の学校訪問(B訪問)で実施
- ② 対象: 所属する学校の全教員
- ③ 実施方法:
学校の実態に応じて、テーマを設定しワークショップ等の熟議参加型の話し合いを実施
 - ・テーマ1 「はじめ問題への対応」
 - ・テーマ2 「不登校問題への対応」
 - ・テーマ3 「学校課題への対応」

【話し合いのテーマ(例)】

- ・課題を抱える児童の理解を通して
- ・不登校未然防止に向け、子供たちが行きたくなる学校とするために
- ・事例から学ぶはじめへの対応
- ・「魅力ある学校づくり推進事業」との関連
- ・児童が自己有用感を感じる場の工夫について
- ・「生徒指導の3機能」を生かした授業づくり・学級づくりについて
- ・合理的配慮の視点から児童が安心して学校生活が送れる環境作りについて
- ・授業づくりを通して望ましい人間関係の育成と児童の心のケアについて
- ・「はじめ対応の手引き」を活用した話し合い

(2) 「登校支援ネットワーク事業」について

① 宮城県における「登校支援ネットワーク事業」の位置付け

豊かな心の育成・未来を担う人材の育成

心のケア関連事業

「志教育」推進事業

○教育相談充実事業

- ・スクールカウンセラーの派遣
- ・事務所専門カウンセラーの配置
- ・適応指導教室支援
- ・けやき支援員派遣

○はじめ・不登校等対策推進事業

- ・登校支援ネットワーク事業
- ・在学青少年育成員配置
- ・心のケア支援の配置
- ・心のサポートアドバイザーの配置
- ・スクールソーシャルワーカー活用
- ・みやぎ小・中学校いじめ問題を考えるフォーラム
- ・小・中学校いじめゼロCMコンクール

○生徒指導支援事業

○魅力ある学校づくり推進事業

○みやぎ子どもの心のケアハウス運営支援事業

○志支援事業

- ・「志教育支援事業」推進会議の開催
- ・志教育推進地区指定5地区
- ・「みやぎの先人集」第2集指導資料の作成
- ・「志教育フォーラム2018」の開催
- ・豊かな心を育む道徳授業づくり研修会
- ・豊かな心を育む研究指定校事業
- ・「特別の教科 道徳」の着実な推進に係る取り組み
- ・豊かな心を育む人権教育指導者研修会

② 「登校支援ネットワーク事業」の取組

○目的

不登校児童に対する学校の取組を支援すると共に、学校、家庭、関係機関が連携したネットワークを構築し、不登校児童生徒に対する学校復帰に向けた多様な支援を行う。

○事業内容

- ・「登校支援ネットワーク連絡会議」及び「地域ネットワークセンター」の設置
- ・訪問指導員の派遣
- ・不登校理解のための教員等を対象とした研修会の実施
- ・不登校児童生徒の保護者等を対象とした教育相談の実施
- ・適応指導教室連絡会議の実施

② 「登校支援ネットワーク事業」の取組
訪問指導員の派遣について

○目的

不登校児童生徒(別室登校や登校しぶりの児童生徒も含む)及びその保護者を対象に、訪問指導員(教職経験者、スクールカウンセラー経験者等)が家庭や学校を訪問し、個別的相談活動や学習支援を行う(各学校に別室登校をする児童生徒への学習支援も可能)。

【訪問指導員の状況等(平成27～29年度 石巻地区)】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
訪問指導員任用数	2	3	5
訪問指導員派遣学校数	1 (小1中0)	4 (小2中2)	8 (小3中5)
訪問指導員支援対象児童生徒数	1 (小1中0)	5 (小3中2)	15 (小3中12)
学校等支援訪問回数	31 (小20中10他1)	36 (小22中13他1)	44 (小24中20他0)

② 「登校支援ネットワーク事業」の取組
不登校児童生徒の保護者等を対象とした教育相談

○目的

不登校及び不登校傾向の児童生徒の保護者や家族等が集まり、その改善及び解消に向け、事務所専門カウンセラーの講話を聞いたり、参加者同士で情報を交換し合ったりする場を提供する。

○内容

- ・開催回数: 年2回開催
- ・石巻地区開催(7月、宮城県石巻合同庁舎内)
- ・「子ども支援懇談会～あったかスペースINいのまき～」

- ・登米地区開催(12月、宮城県登米合同庁舎内)
- ・「子ども支援懇談会～スワンクラブINとめ～」

○担当

担当指導主事・在学青少年育成員・事務所専門カウンセラー

(3)「みやぎ子どもの心のケアハウス」の運営支援

○目的

東日本大震災による住環境や家庭の経済状況の変化等は、子どもたちの心に大きな影響を与えている。これらの影響が考えられるいじめや不登校により、学校生活に困難を抱えるようになった子どもたちの学校復帰や自立支援の取組を行っている。

○内容

- ・平成30年度は20市町で設置、県が支援
- ・管内の3市1町にはすべて配置
- ・「心のケアスーパーバイザー」の配置と3つの複合的なサポート

心サポート機能

教育相談窓口としての心のケアと、学校での別室登校児童生徒の支援や家庭訪問による支援

適応サポート機能

不登校傾向にある児童生徒の早期学校復帰へ向けた支援

学びサポート機能

子どもの心のケアハウスや学校の別室等で学習支援

13

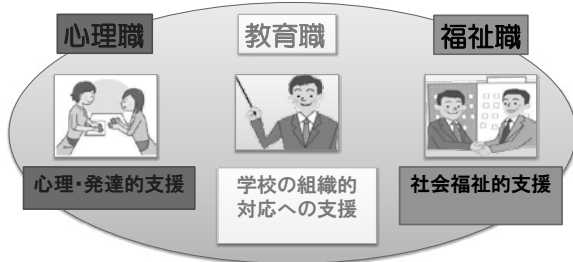
6 児童生徒の心のサポート班について

- ・「心のケア」の重要性
- ・「いじめ」や「不登校」に至る経緯等も複雑多様化
- ・「教職員を外から支える」仕組み



14

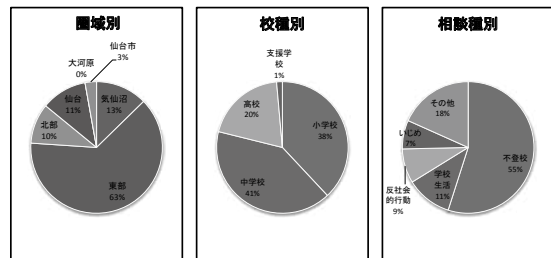
サポート班の特徴



- 3職種でワンストップ的支援
- 学校や家庭等に訪問もできるアウトリーチ機能

15

サポート班の相談活動状況
～昨年度までの2年間の傾向～



16

ケース対応から…

- | | | |
|---|----------|--|
| <p>■生活環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転居、転校 ・家族、友達との別れ ・生活基盤の不安定さ ・ふれあい、声掛けの乏しさ | <p>↔</p> | <p>■影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな関係構築 → 苦手な子が多い ・慢性的な不安 → 集中力不足 ・愛着不足 → 親子の共依存 |
|---|----------|--|

安心を増やしていく関わり

17

宮城県教育委員会
学校・関係機関の皆様へ
学校と子どもたちを支えます
児童生徒の心のサポート班を新設しました

個別に担任する児童生徒の心のサポート

心のサポート班
スタッフ
指導主事

スクールソーシャルワーカー

3種類のスタッフで班を構成
それぞれの専門性を生かしたワンストップ的支援
相談時間 0225-58-3341
受付時間 9:00～17:00

心のケア・いじめ・不登校を『オールみやぎ』で対応
宮城県東部教育事務所 児童生徒の心のサポート班

18

被災地における子どもや家族への支援

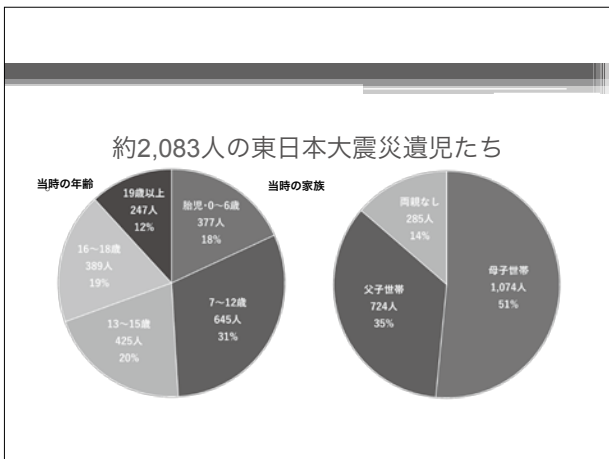
あしなが育英会 東北事務所（石巻担当）
阿部 結花

1

あしなが育英会とは？

- 病気、災害、自死遺児を奨学金と心のケアの物心両面から支援する民間団体
- 30年間で4万2千人に奨学金を貸与
- 小説「あしながおじさん」をモデルに

2



3

東日本大震災支援活動

- 特別一時金制度 (2082人に1人当たり282万円を給付)
- ワンデイプログラム、宿泊のつどい (2011年5月より石巻市内にて開催)
- レインボーハウス建設
- 家庭訪問
- 調査活動
- 他団体との連携活動 (東北大学震災こども支援室Sチル「しゅくだい塾」)

4

石巻レインボーハウス

自分も大事、相手も大事

2014年 石巻市中里に完成

5

今後、気がかりなこと

子ども

- 「覚えていない」世代の気持ちへの寄り添い
- 後ろ髪をひかれる子ども、孫の気持ち
 - 「心配をかけたくない」
 - 「面商を見なければならぬ」
- 「自分の人生を歩みたい」
- 「私を普通の子どもにして」

保護者

- 祖母の孫育て
 - 「いつまで育てられるか」
 - 「親がいないから...と思われぬように」
- 思春期、子ども（異性）との関わり方
 - 「男の人だったらわかるのに...」
 - 「相談する人がいたらいいのに...」

6

7年半の積み重ねのなかで

子ども
 ・同じ境遇の者同士のピアサポート
 長い年月を共に過ごし、子ども達同士は兄弟のような関係
 安心・安全な環境のなかで自然に出てくる亡き人の話
 ・幼少期来館していた社会人、学生達にとっての「帰る場所」


保護者
 ・親戚の集まりのようなやさしい時間
 1人での子育て（孫育て）や思春期、子ども（異性）の関わりを相談しあう。
 ⇒話せる仲間と語り合うことで1人で悩みを抱えなくても良い安心感

ボランティア
 ・継続的な関わり、寄り添い
 一緒に変化・成長を見守る仲間

7

最後に

ひとりひとりの「これから」を支えるが
 子ども達とその家族を見守る
 たくさんの人の温かいまなざしが必要です。



8

メモ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

門馬 優氏 資料

どんな境遇のもとに生まれた子ども・若者でも、
自分の人生を、自分で歩むことができる地域社会をつくる

「震災がきて、救われた」
こんな言葉を、二度と聞かなくてよい地域に。

NPO法人TEDOC 代表理事
石巻圏子ども・若者総合相談センター センター長
門馬 優

1

自己紹介 / 代表理事プロフィール

門馬 優 (もんま ゆう)

平成元年3月1日生まれ、宮城県石巻市出身。NPO法人TEDOC / 代表理事。石巻圏子ども・若者総合相談センター / センター長早稲田大学大学院教職研究科修士課程修了(教職修士号)。中学校専修教員免許状、高等学校専修教員免許状。

東日本大震災で故郷が被災。2011年5月に様々な困難を抱える子ども・若者を支援するTEDOCを設立(2014年9月NPO法人化)。石巻専修大学共創研究センター特別研究員(2013~2014)、石巻地域福祉委員会委員(2015~2017)、石巻市教育委員会学校支援地域コーディネーター(2016~2017)等を歴任。内閣府「アウトリーチ(訪問支援)研修」(2017)を修了した他、内閣府「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」受賞(2017)。

現在は、石巻市子ども・子育て会議委員、宮城県教育委員会地域学校協働活動評価・検証委員会、石巻市立松田中学校学校評議委員、子どもの貧困対策センター公益財団法人あすのばアドバイザー、公益社団法人チャンス・フォー・チルドレンアドバイザー、ユースソーシャルワーカーみやぎ代表理事等を務める。

法人内では、子ども・若者へのアウトリーチを含む子ども・若者、その家族への個別性支援を担当。英語力、英語・英語・自給自足、長生会、動物などのハイリスクケースを担当。生活困窮者自立支援法に基づく法定事業である「生活困窮世帯の子ども学習支援業務」事業責任者および子ども・若者育成支援推進法に基づく「子ども・若者総合相談センター」事業統括者・センター長を務める。

2

「どんな子ども・若者も支える！」法人概要

■ 設立年月日
2011年5月12日設立、2014年9月法人登記

■ 主な活動地域
宮城県石巻市を中心に、東松島市・女川町の2市1町

■ 組織体制
・職員数 8名(20代~50代の年代構成)登録ボランティアのべ約200名
・学校教員免許、社会福祉士、精神保健福祉士、キャリアコンサルタント、幼稚園教諭、保育士、産業カウンセラーなど他職種で構成

<p>支援チーム (=消火)</p> <p>子ども・若者総合相談センター トワイライトスペース ほっとスペース 定期訪問支援(家庭教師型) 個別伴走支援</p>	<p>地域チーム (=防火)</p> <p>子ども食堂(学校・地域協働) 子ども食堂立ち上げ支援 地域住民・議員向け勉強会</p>
--	---

3

「どんな子ども・若者も支える！」法人概要

宮城県が子ども若者育成支援推進法に基づき設置した
石巻圏子ども若者支援地域協議会の「指定支援機関」

4

語弊があるかもしれないけれど、
震災がきて、救われたって思ってるんだよ。

5

うつ病
アルコール依存症
不登校

リストラ
非行
家庭内暴力
経済的困窮

6

NPO法人
TEDOC

震災があっても、なくても、
地域には、「助けて」の声を
あげられずにいる子どもたちがいた。

©2018 NPO法人TEDOC

7

NPO法人
TEDOC

どんな境遇のもとに生まれた子ども・若者でも、自分の人生を、自分で歩むことができる地域社会をつくる

虐待 リストラ 障がい

どんな境遇のもとに生まれた
子ども・若者でも、自分の人生を、
自分で歩むことができる
地域社会をつくる

不登校 暴力団 性的被害

©2018 NPO法人TEDOC

8

「SOS」の声とにかく答え続け、支え続ける「支援」
「支援」がなくても当たり前暮らせる「地域」づくり

NPO法人
TEDOC

法人の 取り組み	支援 チーム	総合 相談G	子ども・若者総合 相談センター	0～39歳の困難を抱える 子ども・若者、その家族 のワンストップ相談窓口。 ※宮城県委託
		通常 支援G	ほっとスペース石巻	学齢期の子が通う拠点型 フリースクール。
			トワイライトスペース	生活に困難する小4～高3 年代までの子どもが通う 拠点型の夜の居場所※石 巻市委託
	個別 支援G	定期訪問型支援	生活に困難する小4～高3 年代までの子どものもと へ定期的な訪問でサポー トを行う※石巻市委託	
		個別 支援G	個別伴走支援	0～39歳の困難を抱える 子ども・若者、その家族 に対して、アウトリーチ も含む包括的な支援コー ディネートを行う。
地域 チーム	地域づくりG	子ども食堂	学校・地域の協働、地域の 子どもの居場所づくり。 ※2017年度、宮城県委託	
調査・研究事業 石巻市における子どもの生活実態や、支 援団体、社会資源の状況を明らかにする。 ※2018年度、石巻市委託				

©2018 NPO法人TEDOC

9

「支援」どんな取り組みをしているのか？
夕刻から夜にかけての“当たり前”の営みを届ける拠点

NPO法人
TEDOC



トワイライト
スペース
(通常支援G)

©2018 NPO法人TEDOC

10

「支援」どんな取り組みをしているのか？
不登校の子どもたちの、最初の一歩をサポートする拠点

NPO法人
TEDOC



ほっと
スペース
(通常支援G)

©2018 NPO法人TEDOC

11

「支援」どんな取り組みをしているのか？
0～39歳の子ども・若者、その家族のワンストップ相談

NPO法人
TEDOC



総合相談
センター
(総合相談G)

©2018 NPO法人TEDOC

12

「支援」どんな取り組みをしているのか？
困難ケースの支援コーディネート・ケアマネジメント

NPO法人 TEDOC



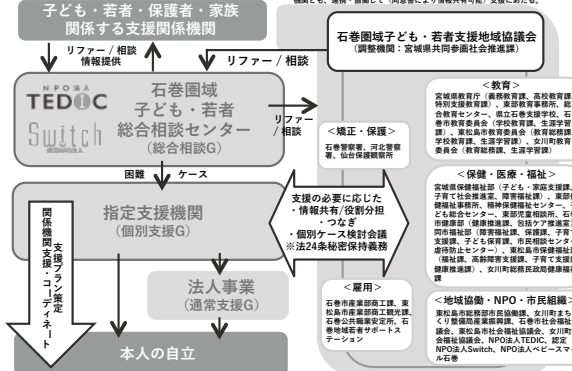
個別伴走支援
(伴走支援G)

©2018 NPO法人TEDOC

13

「支援」どんな取り組みをしているのか？
“宮城県初”のワンストップ子ども・若者総合支援体制

NPO法人 TEDOC



子ども・若者・保護者・家族
関係する支援関係機関

石巻圏子ども・若者支援地域協議会
(調整機関：宮城県共同参画社会推進課)

石巻圏子ども・若者
総合相談センター
(総合相談G)

石巻警察署、河北警察署、仙台保健所

指定支援機関
(個別支援G)

法人事業
(通常支援G)

本人の自立

©2018 NPO法人TEDOC

14

どのような状況に置かれた子どもを支えているのか？
様々な困難を抱えた子ども・紗綾 (仮名・高2)

NPO法人 TEDOC

※個人が特定されないように、複数のケースを組み合わせて、構成し直していますが、実際の事象です。

- ・ 祖母、本人(長女)、2人の妹(次女・三女)で4人で賃貸アパートで暮らす。小学4年生のときに、実父が覚醒剤の所持および使用の現行犯で逮捕され、離婚。その後、中学3年生のときに、実母も同じ罪により逮捕され、本人が世帯主として生活保護を受給しながら生活する。本人・次女・三女他に、弟(長男)がいるが、実母の逮捕に伴い、児童養護施設に引き取られた。なお、4人の子どもはいずれも実父が異なる。
- ・ 本人は精神的に不安定なところがあり、中学校1年生からリストカットを繰り返している。出会い系サイトで遠距離に住む男性との交際をしている。タバコ、ヒース等の学校での行動が目立つとともに、学力不振。知的発達にやや課題を抱えており、診断は受けていないものの、IQは70~80程度の境界性知能と思われる。幼少期からの愛着形成のプロセスに大きな課題を抱えるとともに、小学校の頃から不登校がちな状況が続いている。
- ・ 次女・三女もそれぞれ、リストカットを繰り返しているほか、学校では授業中の立歩き、同級生に対する暴言・暴力等の行動が見られ、三女はいわゆる赤ちゃん返りと思われる行動もみられている。事実上の養育者となっている祖母への暴言もある。
- ・ アパート内は、ゴミで溢れており、ペットボトル、食べかけのカップラーメンなどが散乱している。金銭管理ができておらず、ライフラインが止まることもある。

©2018 NPO法人TEDOC

15

どのような状況に置かれた子どもを支えているのか？
様々な困難を抱えた子ども・乃亜 (仮名・小5)

NPO法人 TEDOC

※個人が特定されないように、複数のケースを組み合わせて、構成し直していますが、実際の事象です。

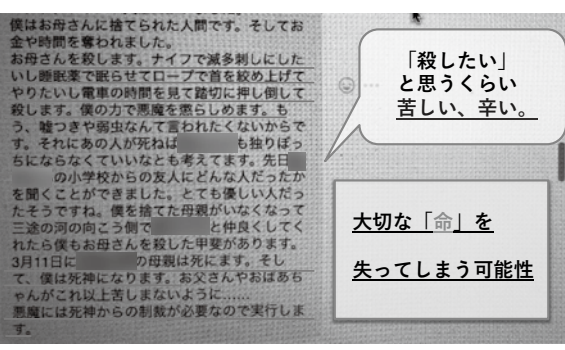
- ・ 実母と2人で、公営住宅で暮らしている。幼少期に実父からの実母への暴力、DVがエスカレートし、両親が離婚。就労収入はなく、児童扶養手当を受けながら生活をする。
- ・ 実母はアルコール依存、うつ病、心的外傷後ストレス障害などを患っている他、内臓器にも疾患を抱えており、ほとんど寝たきりの状況であった。通院はしていたが、主治医とのトラブルが絶えず、病院を転々とした。訪問看護ステーションの利用も薦められているが、拒絶。本人への養育はほとんど行われておらず、家事のほとんどを本人が行っている状況であった。
- ・ 本人は小学校入学段階から不登校状況が続いており、一度も学校に行ったことがない。自宅で実母の代わりに家事を余儀なくされているが、出来ないことが多く、実母が叱責されることもしばしばある。時をみて、近くのコンビニや商業施設に出かけることがあり、経済的に非常に苦しいことから、万引き等を繰り返しているのではと近隣住民から学校に目撃情報が寄せられていた。
- ・ 学校から実母宛に電話をかけたり、家庭訪問を試みたりするものの、応答されることは、ほとんどない。離婚の経緯から、親族との関係は絶縁の状態にあり、本人への養育について、サポートを得られることは難しい。民生委員も気になっているものの、関わりをもてずにいる状況が続いていた。

©2018 NPO法人TEDOC

16

なぜ子ども・若者育成支援推進法に基づく支援が必要？
社会生活を営む上で困難を抱えた若者からのSOSのサイン

NPO法人 TEDOC



「殺したい」と思うくらい苦しい、辛い。

大切な「命」を失ってしまう可能性

©2018 NPO法人TEDOC

17

なぜ「子ども・若者総合相談センター」および「指定支援機関」としての個別伴走支援が必要なのか？

NPO法人 TEDOC

経済的困窮、虐待・ネグレクト、疾患、障がい、対人関係等様々な複合的な要因が絡み合い、社会生活を営む上で「困難」を生み出している。

過去の支援へのトラウマや、状態の長期化により、支援そのものへの拒絶があったり、導入段階でのラポール形成など、支援に時間がかかる。

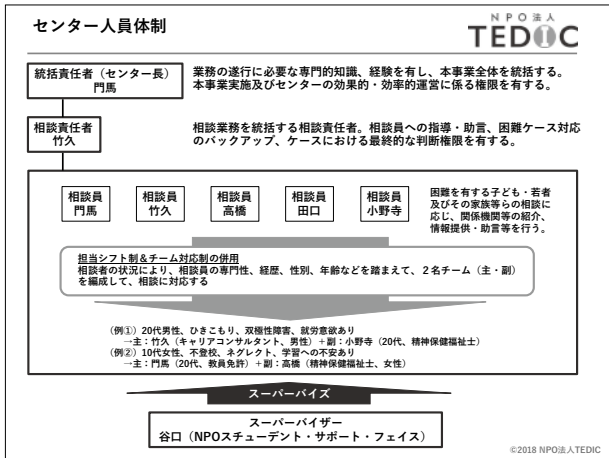
本人・保護者・家族が支援機関を訪れたり、支援を求めると自身が「困難」な状況におかれている。

「多機関連携」・「長期・関与継続型」・「アウトリーチ」を前提とした、支援体制の構築が必要不可欠！

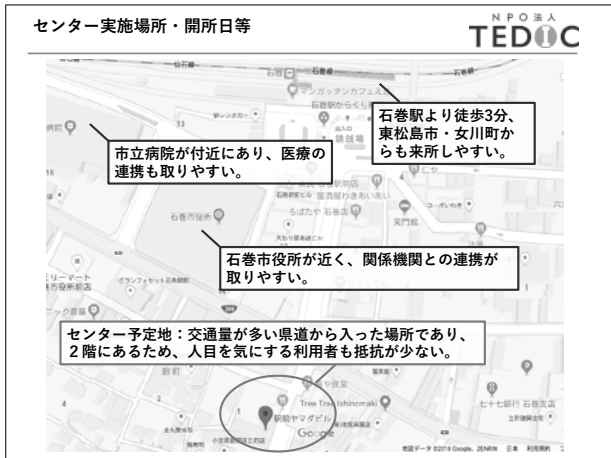
ワンストップ総合相談窓口である「子ども・若者総合相談センター」及び子ども・若者支援地域協議会と協働しながら個別伴走支援(ケースマネジメント)する「指定支援機関」が鍵！

©2018 NPO法人TEDOC

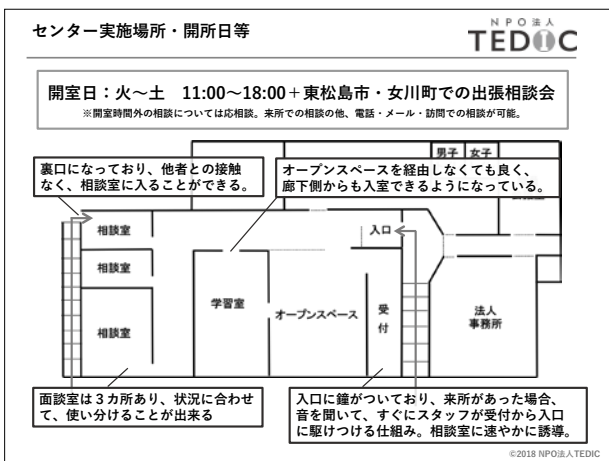
18



19



20



21

「子ども・若者総合相談センター」に寄せられたSOS 7～8月にかけて寄せられた約150件の相談 ※通報値 (修正あり)

相談の件数	累計	147	重複課題を抱えた困難ケースの相談が多い									
相談者内訳 (行政機関には管轄/関係等 支援機関には医療機関等を含む)	本人	家族	友人	学校	行政機関	支援機関	その他	相談手段内訳	来所	訪問	電話	メール等
	28	57	1	16	9	36	0		48	22	74	3
相談内容内訳	性別	ひきこもり	不登校	進路	家庭問題	対人関係	その他					
	4	10	64	4	34	12	16					
所属	幼児	小学校	中学校	高校	大学等	その他	中学校卒業	高校中退	高校卒業	大学等中退	大学等卒業	その他
	0	23	39	48	0	6	5	0	0	4	0	22
対象者課題 (課題が重複している場合は複数選択)	対人関係	行動	移動	心理	疾病・障害	依存	犯罪・被害	重複課題相談件数				
	113	73	42	69	86	4	12	121				
学校	経済	住居	職場	家族	制度利用	その他						
	110	79	43	22	117	66	19					

22

「子ども・若者総合相談センター」指定支援機関 複合的な困難を抱える子ども・匠さん (10代) の例

※個人が特定されないように、複数のケースを組み合わせて、構成し直していますが、実際の事象です。

- 母子家庭。母親と本人の2人で、公営住宅で暮らしている。小学校1年生の時に両親が離婚。現在、母親は就労しておらず、児童扶養手当を受給しながら、生活。(養育費の支払いはなく、元夫も生活保護を受給しながら、生活をしている。)母親は精神疾患(双極性障害)を患っており、精神科に通院。主治医の他、カウンセラー、医療ソーシャルワーカーがサポートしている。本人は広汎性発達障害の疑い(特に自閉症スペクトラムの傾向が強い)もある。
- 小学5年生のときに、経済的困難を原因にクリスマスプレゼントをもらえなかったことをきっかけに、親子で喧嘩。包丁、刃物を相互に突きつけた結果、母親が負傷。警察が介入し、児童相談所による一時保護。この頃から、母親が新興宗教に入信する。家庭復帰後、中学校へ進学。中1のGW明けから不登校。自宅に引きこもり、オンラインゲームに熱中、昼夜逆転。布団は2年以上、そのままの状況。室内にはカップラーメン、ペットボトル、ティッシュなどが散乱。悪臭が漂っている。
- 児童相談所からの依頼を受け、学校での個別ケース検討会議召集。本人の興味・関心であるネットゲームを導入しながら、アウトリーチを開始。指定支援機関として、緊急の食糧支援、生活保護への繋ぎをしながら、本人の外出支援を行う。並行して、病院・ハローワークと連携しながら、母親の就労支援(初回同行)を行い、母親自身の日常生活の立て直し、状況改善とともに、本人の復学に向けたスモールステップの支援(登校できない本人コンプレックスの確認、個別支援)。
- 現在、母親は一般就労し、本人は部活参加のための復学を果たしている。

23

「子ども・若者総合相談センター」指定支援機関 複合的な困難を抱える若者・大地さん (20代) の例

※個人が特定されないように、複数のケースを組み合わせて、構成し直していますが、実際の事象です。

- 母子家庭。母と2人県営住宅に居住。本人は、中学卒業後、高校中退、自宅中心の生活を送っている。母は体調不良から働けなくなり、数年前より生活保護を受給。接点を持っているのは、生活保護のCW(ケースワーカー)と、母の主治医のみ。
- 父親は本人が生まれた直後に蒸発。母が夜の仕事をしていた関係から、幼少期は祖母が主に養育。母親から本人へ虐待あり、刃物を突き付けたこともあった。母自身も祖父より虐待を受けて育っており、祖父の自殺も経験している。自殺をほめかすなど、人を振り回す傾向があり、パーソナリティ障害の疑いもある。
- 本人、知的に低く、小学校高学年並み。ほぼ1日TVゲームをして過ごしている。3年ほど前に自ら地域生活支援センターに繋がり、半年ほど通所するも行かなくなり、ひきこもる。支援機関側と母親側で見解が異なり、理由はわからず。3年前40kg台だった体重は、現在100kgほどになっている。現在では、本人が母への暴力もあり、幼少期と立場が逆転している。母が逃げたこともあり、母の行動をGPSで管理しようとしている。
- 医療機関からの相談(総合相談センター)により検討。指定支援機関として、医療機関による個別ケース検討会議を実施。(病院Dr・SW、社協、福祉事務所CW。)母の医療受診をきっかけとしながら、SWからの働きかけを確認。支援機関同士での体制を作りながら、本人へのアクセスを探る。過去の支援へのトラウマもあるため、過去支援者からのヒアリング等を進めながら、支援方針を検討。

24

まとめ：どんな境遇のもとに生まれた子ども・若者でも、
 自分の人生を自分で歩むことができる地域社会のために



- ① 「消火」と「防火」の視点にたった地域社会づくりの推進が必要。
 「このまちで暮らす”すべての子ども・若者”を支えることができるか。
 （どれかだけでは、あまり意味はない）」
- ② 不足している支援や社会資源を充足させるという「何ができるのか？」
 という視点とともに、それらと子ども・若者目線に立った時に、
 「どうしたら、繋がりがやすいか？」という視点が必要。
 （繋がれなければ、どんな理想も形には、ならない。）」
- ③ 子ども・若者の未来に思いを馳せながら、今を支えること。子ども・
 若者の声、顔を思い浮かべた上での地域社会づくりの推進を。

©2018 NPO法人TEDOC
 25

メモ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

太田 倫子氏 資料

石巻日日子ども新聞
世界を広げよう！

2018年10月28日
子どもの虐待防止推進全国フォーラム

 公益社団法人
こどもみらい研究所

1



2

■「生きる力」とは？■

つくる = 表現力

つたえる = コミュニケーション力

つながる = 行動力

 こどもみらい研究所

3

■石巻日日子ども新聞■


2011年、東日本大震災を経験した子どもたちが、震災の記憶を次世代に残し伝えることを目的に、子どもたちが取材し、つくる新聞として、2012年3月11日に創刊。季刊発行（3月、6月、9月、12月の各11日）、北海道から沖縄、海外の寄付者に送付されています。


仕様：ブランケット判、カラー4ページ

発行部数：3万部(2018年9月現在)

発行：公益社団法人こどもみらい研究所

協力：株式会社石巻日日新聞社



 こどもみらい研究所

4

■こどもみらい研究所■

子どもたちが、つくる力（表現力）・つたえる力（コミュニケーション力）・つながる力（行動力）を磨き、変化の激しい現代社会を生きぬく力を身につけるための機会を創出、支援することを活動の目的としています。


事業内容 |

- ・子どもによる情報発信活動
- ・子どもの表現活動を活性化させる事業
- ・子どもの健全な心身を育成するための文化・スポーツ事業

設立 | 2011年12月1日 一般社団法人キッズ・メディア・ステーション
2017年12月1日 公益社団法人こどもみらい研究所に名称変更

所在地 | 宮城県仙台市中央二丁目10番3号4階

代表理事 太田 倫子
理事 近江 弘一 | 石巻日日新聞社 代表取締役社長
理事 門脇 篤 | 一般社団法人まちとアート研究所 代表理事
理事 久保田 晴夫 | センコン物流株式会社 代表取締役会長
監事 山本 英寿 | 株式会社山本会計with 代表取締役社長

 こどもみらい研究所


5

石巻日日子ども新聞がもたらした気づき

★すべての子どもは生まれながらの「ジャーナリスト」★
好奇心と相手の心を聞く力

★「取材」は未来を開く扉★
取材なら、どこにでも、誰にでも会いに行ける

★地域の魅力を再発見★
日常にこそ価値がある


 こどもみらい研究所

6

石巻日日こども新聞がもたらすもの

★世界を広げる★

知らないことを知る
適性を見つける
目標を設定する
モチベーションを上げる



こども大学 石巻校

7

メモ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....